

令和4年度 仙台市若林区区民協働まちづくり事業 企画事業
実績概要報告書（令和5年2月17日現在）

No.	事業名	担当課	ページ
1	若林区健康づくり区民会議	家庭健康課	1
2	六郷地区の健康づくり推進	家庭健康課	3
3	若林区安全安心街づくり活動推進事業	区民生活課	7
4	仙台海手におけるにぎわいづくり事業	海浜エリア活性化企画室	9
5	若林区民ふるさとまつり	まちづくり推進課	11
6	地域メディアの活用による 〈新しい地縁〉創造プロジェクト (ラヂオはいらん若林)	まちづくり推進課	13
7	若林区合唱のつどい	まちづくり推進課	15
8	広瀬川灯ろう流し 「光と水とコンサートの夕べ」	まちづくり推進課	19
9	若林区魅力発信事業 (若林わくドキまち歩き)	まちづくり推進課	21

※わかばやし区春らんまんは新型コロナウイルスの影響により中止（実行委員会への補助金の支出も無し）

令和4年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

家庭健康課

2. 事業名

若林区健康づくり区民会議

3. 事業の概要

「仙台市いきいき市民健康プラン」の実施に向け、平成14年度に若林区内の市民団体や教育機関、関係団体で構成する「若林区健康づくり区民会議」を設置した。そこで健康づくりの指針となる「若林区健康づくり行動計画」を策定している。現在、「第2期若林区健康づくり行動計画」のもと、区民協働の健康づくり事業として、健康づくりフェスティバルや健康づくり寸劇の制作・上演などによる健康づくり啓発を実施している。実施にあたっては、関係団体により構成されている委員と、若林区の健康課題の分析や区民が取り組みやすい事業展開について検討している。

4. 事業の目的・ねらい

「区民会議」と行政とが協働で区民の健康づくりの推進を図ることを目的とする。

5. 事業の成果・効果

若林区の健康課題を分析した結果を受け、令和元年度より重点項目に「高血圧予防」を掲げ、ライステージ毎での事業展開および重点地区の介入を会議で確認し実施している。

令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、感染予防に配慮しながら健康づくりの啓発活動を行っているが、令和4年度は、区民会議の組織である「健康づくりフェスティバル」及び「健康づくり寸劇」が開催され、対面での啓発を行うことができた。

区民会議は令和2年、3年は中止し、書面にて活動報告を行った。令和5年度に、若林区健康づくり行動計画の評価を行うため、会議を開催する予定である。

また重点地区の六郷地区への介入は、六郷地区の健康づくり推進事業として実施している。

6. 事業費（決算額）

（見込額）

講師謝礼	26,000
消耗品	334,000
印刷費	209,000
食糧費	60,000
事務機器賃貸料	5,000
賃借料	1,000
合計	635,000

7. 実施状況

実施時期	実施内容
5月	1) 健康づくり寸劇 ドリーム幼稚園にて実施
6月	1) 第1回健康づくりフェスティバル実行委員会
7月	1) 第1回健康づくり寸劇 劇団員交流会を実施 2) 第2回健康づくりフェスティバル実行委員会
8月	1) 健康づくり寸劇 物品修繕 (2日間) 2) 第3回健康づくりフェスティバル実行委員会
9月	1) 健康づくり寸劇 練習会
10月	1) 健康づくり寸劇 練習会 2) 第4回健康づくりフェスティバル実行委員会 3) 健康づくりフェスティバル開催 4) 健康づくり寸劇 フェスティバルに出演 5) 若林区民健康ウォーク・ラジオ体操大会にて、げんきくん体操を実施。
11月	1) 第5回健康づくりフェスティバル実行委員会 (反省会) 2) 健康づくり寸劇 練習会 (2回) 3) 健康づくり寸劇 六郷ぱれっと保育園にて実施
3月	1) 第2回健康づくり寸劇 劇団員交流会 (予定)
年間	健康づくり行動計画に連動して事業を実施

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

今年度は、コロナ禍では有るが、できるだけ事業を中止しないよう取り組んできた。区民会議については、来年度に若林区健康づくり行動計画を評価する予定であるため、来年度に会議を開催する予定にしている。

重点地区の六郷地区への介入は、六郷地区の健康づくり推進事業として実施した。

9. 今後の事業の目標・展開等

若林区の特定健診の血圧の有所見率は低くなってきているが、メタボリックシンドローム該当率は高い状況である。事業全体のテーマは、減塩を継続しつつメタボ該当者の減少について、取り組んでいく。

令和5年度は、若林区健康づくり行動計画を評価し、今後の事業の方向性を検討する。特定健診の分析結果やKDBを活用し、地区保健活動と連動した区全体の健康課題の分析を進める。

令和4年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

家庭健康課

2. 事業名

六郷健康づくり事業

3. 事業の概要

六郷地区は乳幼児期・学齢期において肥満の割合が高く、青年期・壮年期においては健診の有所見者率や生活習慣病で治療している人の割合が高い地域である。区内でも健康課題の多い六郷地区において、生活習慣病やその予防について正しい知識を普及啓発し、住民の健康増進を図る。さらには区全体の健康増進につなげる。

4. 事業の目的・ねらい

六郷地区の住民が地域の健康課題を認識するとともに、自らの健康状態や生活習慣を振り返り、生活習慣改善のための自主的な取組を継続的に行うことができる。

5. 事業の成果・効果

六郷健康づくり推進事業は、令和3年度から5年度までの3か年を予定している。地域の拠点である六郷市民センターと地域の健康課題を共有し、令和元年度、3、4年度に同市民センターの懇談会で子育て及び地域関係者を対象としたワークショップを共催し、自分自身の健康を振り返りつつ、自分たちの所属や関係機関と連携できる取り組みについて考えた。またワークショップやイベント、健康教育等を実施しながら、地域の関係者とのつながりを広げた。

6. 事業費（決算額）

（見込額）

講師謝礼	97,000
消耗品	400,000
印刷費	165,000
食糧費	4,000
使用料	0
合計	666,000

7. 実施状況

実施時期	実 施 内 容
5 月	1) かあちゃんずと健康レシピの打ち合わせ (4 月～) 2) ドリーム幼稚園に寸劇による歯科健康教育
6 月	1) 尿中ナトカリ比・血圧を測定し、結果と今後の食習慣等を参加者へ還元。 (学区体振) 2) 地域スーパーへ減塩特設コーナーの設置 3) 子育て関係機関へ健診から見える健康課題の共有と前年度のアンケート結果集計の還元及び肥満に関する考え方の擦り合わせ。
7 月	1) かあちゃんず、青葉学院短大とレシピについてそれぞれ打ち合わせ 2) 六郷小 6 年「体育」の授業で、東北工業大学と協働で生活習慣病予防について啓発。 3) 尿中ナトカリ比・血圧を測定し、結果と今後の食習慣等を参加者へ還元。 (サロン)
8 月	1) 尿中ナトカリ比・血圧を測定し、結果と今後の食習慣等を来所者へ還元。 (六郷保健センター)
10 月	1) 六郷市民センターと共催で、子育て関係機関を対象に健康づくりに関する懇談会を開催。 2) 六郷児童館で乳幼児親子対象に講話やワークショップを実施。0 歳は離乳食、1 歳は歯みがき、2 歳はお弁当に関するテーマで実施 (10～11 月)
11 月	1) 「六郷市民まつり」で健康に関するパネル展示と尿ナトカリ比測定を実施 2) かあちゃんず、青葉短大と協働で六郷健康レシピを作成。 3) 六郷ぱれっと保育園に寸劇による歯科健康教育 4) 児童館に学童対象のわかちゃんすごろくを配布し、生活習慣病予防の○×クイズを実施。 5) 六郷中 2 年「保健体育」の授業で生活習慣病予防について啓発 6) 尿中ナトカリ比・血圧を測定し、結果と今後の食習慣等を参加者へ還元。 (サロン)
12 月	2) かあちゃんず、青葉短大と協働で六郷健康レシピを作成。
2 月	1) 学区体育振興会の会員を対象に、健康づくりワークショップを開催。 2) 尿中ナトカリ比・血圧を測定し、結果と今後の食習慣等を参加者へ還元。 (かあちゃんず予定)
通年	1) 六郷健康通信を作成し、住民、関係機関等へ配布 (7, 12, 3 月予定) 2) 健康意識に関するアンケートを作成し、地区活動の中で住民にアンケートを実施し、啓発チラシを折り込んだノベルティを配布。 3) 幼児健診の会場へ啓発ポスターの掲示と指導媒体を使用した保健指導を実施。 3) 児童館へ糖分量パネルの通年展示と 1 年間児童館だよりで啓発記事の掲載を依頼 4) 六郷にあるスーパーに食育レシピ、六郷健康レシピ、六郷健康通信を配架。店舗内の惣菜を活用したバランスメニューを掲示。 5) サロン支援 (被災者健康支援)

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

令和5年度は重点事業としては最終年度となる。広くアンケート調査を実施し、事業の評価を行い、令和6年度以降の事業の終息の仕方や地域への保健活動の展開について、検討していく必要がある。

また、事業の評価をどのように行っていくのか、スーパーバイズを外部講師から頂きながら、今後の地区保健活動へどうつなげていくか検討する。

9. 今後の事業の目標・展開等

六郷健康づくり事業は、重点事業（令和3～5年度）として、地区の全世代を対象とした生活習慣病改善のための取り組みを継続して展開し、最終年度であるため、事業の評価も併せて行う。外部講師によるスーパーバイズを受けながら、内部での評価、市民センター懇談会の場で、住民、関係機関との評価の共有と事業の振り返りを行い、令和6年度以降、六郷地域で継続するもの、他の地域で行うものなど、どのように展開するかを検討する。講師からのスーパーバイズは計3回の予定。

令和4年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

区民生活課

2. 事業名

若林区安全安心街づくり活動推進事業

3. 事業の概要

過去に「安全安心街づくり活動推進モデル地区事業」を展開した地区において現在抱えている課題を聴取し、それに応じて啓発活動などに参画し、事業を実施していくこととした。

今年度は、区内の地域団体への支援を行う前段階として、モデル地区事業対象地域となっている南材地区防犯協会を除いた8つの単位防犯協会に対して防犯活動の有無や活動実施に際する課題、及び区との協働に関する意向について聴取を行った。その結果を踏まえて、回答があった連坊地区と若林地区において物品提供及び、当該協会が主催する啓発活動に参加した。

また、六郷地区や薬師堂防犯協会婦人部と接触し、当該協会が実施する啓発活動や青パトによる地域巡回にも参加した。

4. 事業の目的・ねらい

「仙台市安全安心街づくり条例」第二条（「この条例において「安全安心街づくり」とは、犯罪の防止に関する自主的な活動、犯罪の防止に配慮した環境の整備その他の犯罪の発生する機会を減らすための取組をいう。」）の内容に沿った活動を行っている団体への支援を行うことを目的とした事業である。

当該事業は、昨年度までの「若林区安全安心街づくり活動推進モデル地区事業」を今年度より「若林区安全安心街づくり活動推進事業」と改め、過去モデル地区事業を展開した地域のフォローアップを目指し、地域団体から課題や地域要望等を聴取したうえで啓発活動や防犯講座などを展開する事業である。

今年度における事業実施地域は、区内の各単位防犯協会を通じ各地域の防犯活動の有無や課題等について書面によって聴取を行った結果を踏まえたうえで決定した。

5. 事業の成果・効果

防犯協会の年間活動計画を聞き取り、参画しながら展開した。特殊詐欺に関する啓発活動によって被害抑止を図った。しかし、展開時期に遅れが生じ、事業実施と協力先に偏りが生じてしまった。

次年度以降、事業計画を精査し、防犯協会以外の地域団体にも対象を広げて、啓発活動、又は地域の要望・課題に応じたその他の活動（パトロールや防犯に関する講座など）の展開も視野に入れてまいりたい。

6. 事業費（決算額）

※見込額	
消耗品費	79千円(各種啓発品、チラシ)

7. 実施状況

実施時期	実施内容
令和4年10月19日	薬師堂防犯協会婦人部にて実施の特殊詐欺被害防止に係る高齢者に対する啓発活動に参加。
令和4年10月26日	連坊地区防犯協会主催の特殊詐欺被害防止に係る啓発活動を実施。
令和4年11月17日	六郷地区防犯協会の青色回転灯パトロール車出動式に参加。その後、区のパトロール車にて区内を巡回。
令和4年12月15日	若林地区防犯協会にて実施の、杜の都信用金庫における特殊詐欺被害防止に係る啓発活動を実施。
令和5年1月25日	連坊地区防犯協会にて実施の総合防犯抑止キャンペーンに参加(当日大雪のため中止)。

※詳細については、別紙参照。

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

<p>今年度の事業実施に際して、地域課題等の聴取対象とした団体が防犯協会のみであった。それぞれの地域の実情に応じた的確な支援を行うためにも、今後聴取を行う対象を拡大する必要があると感じる。また、地域の防犯に関して重要な役割を持つ団体である単位防犯協会同士の交流は少ないため、各地域の犯罪情勢、及び各单位防犯協会の状況について各单位防犯協会長が情報交換を行う場が必要であると感じる。</p>
--

9. 今後の事業の目標・展開等

<p>今後の新型コロナウイルス感染状況に留意しつつ、単位防犯協会長の交流の場を提供できるよう検討するとともに、防犯協会を通じて地域の防犯意識の向上に係る講座等の開催も視野に入れた事業の展開を行う。</p>
--

令和4年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

海浜エリア活性化企画室

2. 事業名

仙台海手におけるにぎわいづくり事業

3. 事業の概要

本市東部沿岸地域の賑わい創出を企図して、エリア内各施設の管理者等による協議体「仙台海手（せんだいうみのて）ネットワーク」と協働事業を行うもの。エリア内の交流・集客施設、公園、イベントなどを掲載したリーフレットを作成し、本市内陸部の駅・市有施設等へ配架する。

4. 事業の目的・ねらい

- ・仙台海手ネットワークを構成する施設管理者・事業者・関係機関との連携促進
- ・本市内陸部に対する、現在の東部沿岸地域に関する認知度向上
- ・来訪者の増大による同エリアの活性化推進

5. 事業の成果・効果

- ・本件リーフレットの作成を通じて、新規事業者（三井アウトレットパーク仙台港、アクアイグニス仙台）が仙台海手ネットワークに参加
- ・本市内陸部への東部沿岸地域に関する認知度向上
- ・東部沿岸地域への来訪者の増加

6. 事業費（決算額）

- ・700千円負担金（リーフレット制作） 【未確定】

7. 実施状況

実施時期	実施内容
令和4年5月	仙台海手ネットワーク会議 開催
令和4年7月	仙台海手ネットワーク 事務局と打合せ
令和4年10月	仙台海手ネットワーク 事務局と打合せ
令和4年12月	仙台海手ネットワーク 事務局と打合せ
令和5年2月	仙台海手ネットワーク会議 開催 (2団体加入)
令和5年3月	仙台海手ネットワーク リーフレット印刷・納品予定

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

当初は、仙台海手ネットワーク内で広報戦略部会の立ち上げを想定していたが、コロナの拡大等により会議の立ち上げには至らなかった。同様に、リーフレットの作成が年度末まで遅延してしまったため、実質的にリーフレットの配架によるプロモーション活動は次年度への持ち越しとなってしまった。

9. 今後の事業の目標・展開等

今年度作成したリーフレットを活用しプロモーションを展開するとともに、新たに東部沿岸地域全体を把握できる地図の作成や東部沿岸地域を紹介するHPやSNSを活用した広報等により、エリアの豊かな自然と新たな交流施設等の魅力を発信し、来訪者の増加を目指す。

令和4年度 区民協働まちづくり事業（企画事業）実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区まちづくり協議会（まちづくり推進課）

2. 事業名

第34回若林区民ふるさとまつり

3. 事業の概要

区民による実行委員会が主体となって、区民の総合的な交流の場を提供し、地域の交流推進と活性化を図る。区民の文化芸術活動の発表（ステージパフォーマンス、わたしの作品展、学校じまん）や地域資源を活用した企画（ザリガニ釣り、弟子入り体験教室、若林区民ふるさとまつりスタンプラリー）、地元物産の販売などを行う。

4. 事業の目的・ねらい

若林区内における総合的な交流の場を提供することにより、区民意識の高揚や地域の活性化を図るとともに、区民協働によるコミュニティづくりを目指す。

5. 事業の成果・効果

コロナ禍で3年ぶりの開催となった今回は、「会いたいね」をテーマに10月16日（日）9時～15時で開催した。

● 区民の力が結集する一大イベント

当日までの準備には、若林区民を中心に30余名の実行委員が携わり、まちづくり推進課は事務局として実行委員会を支えている。また、当日は実行委員だけでなく、若林区に関わりのある多くの団体から協力を得ており、当日従事するスタッフは100名を超える。スタッフ以外にも、区内の商店会、同業組合、民間企業、官公庁、福祉団体、学校、個人など、様々な立場の人びとが出展・参加しており、まさに区民協働で作りに上げた一大イベントであった。

多様な立場の人びとが協力してイベントを作り上げたこと、また、若林区ならではの企画を多く実施したことで、運営側及び来場者双方の、若林区への愛着の醸成や区民意識の高揚に寄与した。

● 若林区民ふるさとまつりスタンプラリー

「2021 若林区民オンラインまつり」で初めて開催し、大変好評を得た企画を今年も開催。区内のお店などにスタンプスポットを10箇所設置し、スタンプの数に応じて景品を用意した。スタンプラリー開催期間は10月1日～10月27日の約1カ月間とし、景品交換数は計542個となった。スタンプラリーを実施したことで、お店や施設の集客を促し、地域活性化の一助となった。

6. 事業費（決算額）

5,324,998 円（財源 仙台市共催負担金 4,050,000 円 ほか協賛金等）
内訳：総務費 525,660 おまつり費（会場設営含） 4,550,728 特別企画費 248,610
令和 5 年 2 月 20 日時点

7. 実施状況

実施時期	実施内容
令和 4 年	
5 月 10 日（火）	第 1 回実行委員会
6 月 14 日（火）	第 2 回実行委員会
7 月 15 日（金）	第 3 回実行委員会
8 月 8 日（月）	第 4 回実行委員会
9 月 6 日（火）	第 5 回実行委員会
9 月 9 日（金）	おまつり広場参加者説明会
9 月 17 日（土）	ステージパフォーマンス説明会説明会
9 月 30 日（金）	わたしの作品展参加者説明会
10 月 4 日（火）	第 6 回実行委員会
10 月 16 日（日）	第 34 回若林区民ふるさとまつり
令和 5 年	
11 月 29 日（火）	第 7 回実行委員会（リーダー会議）
令和 4 年	
8 月 8 日（土）～ 11 月 27 日（日）	スポ・レク・フェスタ 2022 開催（全 9 種目）
その他班会議	
・庶務班会議 3 回	・広報班会議 6 回
・特別企画班会議 5 回	・わたしの作品展班会議 5 回
	・健康づくりフェスティバル実行委員会 5 回

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

3 年ぶりの開催で、協力団体も担当者が変わっており、打ち合わせに時間がかかった。また、ボランティアスタッフは十分な人数が集まったが、肝心の実行委員がまつり当日に来られないという人が多く、企画に割く人員が足りなかった。
--

9. 今後の事業の目標・展開等

来年から文化センターと区役所庁舎の改修工事が始まるため、レイアウトを再考する必要がある。コロナの感染対策も継続して行いつつ、区民のみなさまに安心して参加していただけるようなまつりになるよう尽力していく。

令和4年度 区民協働まちづくり事業（企画事業）実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区まちづくり協議会（まちづくり推進課）

2. 事業名

地域メディアの活用による創造プロジェクト（「ラヂオはいらいん若林」制作・放送）

3. 事業の概要

地域の魅力と情報を発信するため、区民スタッフがコミュニティFM（ラジオ3）の協力を得ながら、番組制作及び放送を行う。

4. 事業の目的・ねらい

区民とコミュニティFM放送との協働・連携による地域情報番組づくり及び区民に向けて公開放送を通して広く区民のコミュニティ意識を高め、さまざまな角度から地縁に対する再認識とともに進めるまちづくりへの気運醸成を図る。

5. 事業の成果・効果

今年度は、4回の全体会議を開催し、7月2日から3月18日まで18の放送番組を作成した。番組の内容は、地域で活躍する区民の紹介、商店街の活動等をはじめ、若林区やまちづくり協議会の行事について発信するなど、様々な角度から、まちづくりへの醸成を図るための番組制作に努めた。

広く情報発信を行うことで、区内のまちづくり活動を知るきっかけ作り、番組を通して地域や団体が繋がっていくための架け橋としての役割が果たせた。企画から取材、そして放送と番組制作の中で、区内で活動している様々な人と関わり、一緒にまちづくり活動を盛り上げていくことで、地域コミュニティの活性化に貢献できた。

また、新たな取り組みとして、「ラヂオはいらいん若林」まちづくり懇談会&ラジオ公開録音を11月26日（土）に開催した。みやぎ連携復興センターと共催し、せんだい3.11メモリアル交流館で一般観覧者を募集、オンラインでも同時公開した。これから、このような公開録音を年1回開催出来るよう検討する。

6. 事業費（決算額）

853,578円（仙台市補助金 950,000円）（未確定）

委託料（ラジオ3）…853,578円

7. 実施状況

実施時期		実施内容			
5月18日	第1回全体会議	(7月～9月の放送内容の決定)、取材方法等の確認			
8月17日	第2回全体会議	(10月～12月の放送内容の決定)、取材方法等の確認			
11月24日	第3回全体会議	(1月～3月の放送内容の決定)、取材方法等の確認			
2月16日	第4回全体会議	1年の振り返り、次年度の企画に関する方向性等			
<ul style="list-style-type: none"> 放送期間：令和4年7月2日～令和5年3月18日 本放送：第1・第3土曜日午前10時～10時30分 再放送：第2・第4土曜日午前10時～10時30分 制作本数：18本 					
No.	放送日	テーマ	No.	放送日	テーマ
1	7/2 7/9	河原町マルシェ	10	11/19 11/26	井土町内会・井土地区まちづくり推進委員会の取り組み
2	7/16 7/23	合唱のつどい	11	12/3 12/10	まちづくり懇談会&ラジオ公開録音 前編
3	8/6 8/13	八重樫仙台タンス金具工房	12	12/17 12/24	まちづくり懇談会&ラジオ公開録音 後編
4	8/20 8/27	よみがえる屋台 荒浜DIYワークショップ	13	1/7 1/14	声の年賀状
5	9/3 9/10	若林わくドキまち歩き	14	1/21 1/28	東北学院大学 五橋新キャンパス
6	9/17 9/24	2022 せんだいわらアート～あつまる、ひろがる、みんなのわ～	15	2/4 2/11	石橋屋
7	10/1 10/8	第34回若林区民ふるさとまつり	16	2/18 2/25	森民酒造本家 森民茶房 甘酒カフェ
8	10/15 10/22	わかばやしふれあい朝市	17	3/4 3/11	震災一松木波男さん(漁師)
9	11/5 11/12	不登校特例校開校の取り組み	18	3/18 3/25	河原町 de ひなまつり

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

現在、毎週土曜日(第2及び第4が再放送)の10時から10時30分の時間帯で放送しているが(携帯やパソコンでも聴ける)、リスナーに関心をもってもらうためには、魅力ある番組づくりとする必要がある。しかしながら、番組テーマの制作は市民スタッフ数名の無償ボランティアで運営されており、取材先の発掘、交渉、訪問等に限界があり時間を要する放送テーマづくりが難しい状況である。

9. 今後の事業の目標・展開等

今年度は、メンバー2名が辞任し、1名が新たに市民スタッフとして加わったが、これからも多方面で活躍している区民の新規加入を働きかけていきたい。

また、これまでの取材を中心とした番組編成に加え、新たな切り口による地域の課題やまちづくりの取り組み等について、リスナーの関心を引く魅力ある番組編成に務めていく必要がある。

令和4年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区まちづくり協議会（まちづくり推進課）

2. 事業名

第29回「若林区合唱のつどい2022」 令和4年7月2日（土）若林区文化センター

3. 事業の概要

若林区文化センターを会場として、区内の小学生から大人までが参加する合唱の発表会を若林区合唱のつどい実行委員会（合唱連盟わかばやしと若林区まちづくり協議会で構成）を組織し開催した。

- ・ 開催日：令和4年7月2日（土）
- ・ 場 所：若林区文化センター ホール

4. 事業の目的・ねらい

仙台市若林区文化センターを文化発信の拠点として、若林区内の小・中・高の合唱団や吹奏楽部、「合唱連盟わかばやし」加盟の団体等が参加し、合唱を主体とした音楽祭を開催することで、地域の方々との触れ合いや交流を図るとともに、地域文化活動の活性化を目指す。

5. 事業の成果・効果

新型コロナウイルスの影響で2年連続中止となっていたが、今年度は、感染防止対策をしながら3年ぶりに開催し、「合唱連盟わかばやし」に加盟する10団体、区内の小・中学校が2校、高校が1校、そして福祉関係の1団体が参加した。また、特別企画として、聖和学園高等学校のチアリーディング部を招き、力強くも華麗な演技でオープニングを盛り上げていた。

公募して結成する区民合唱団「宙」は、年々、参加者増加（前回は62名）の傾向にあったが、今年度はコロナ禍での開催となったので、募集人員を制限し、40名とした。団による合唱は、会場全体に感動を呼び起こし、合唱のすばらしさを発信することができた。

また、若林区まちづくり協議会が主催する「まちづくり交流会」の冒頭で、当団体の紹介などを行い、録音した曲を披露した。

合唱のつどいを通じて、地域の方々とのふれあいや交流の場が生まれることで、地域の文化活動の輪が広がることにより、参加人数も500名を超え、地域の文化活動の活性化の一端を担っている。

6. 事業費（決算額）

512,000 円（うち仙台市補助金 442,000 円）（未確定）

（内訳）

賃借料	200,000
印刷費	80,000
謝礼等	85,000
ピアノ調律料	17,000
消耗品代	100,000
食糧費	30,000
合計	512,000

7. 実施状況

活動年月日	活 動 実 施 内 容
3月24日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」の募集チラシ印刷
3月28日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」の募集チラシ施設送付
4月 1日	市政だより「区民合唱団『 ^{そら} 宙』」の募集
4月 1日～4月20日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」の受付
4月26日	運営委員会
4月28日	若林区内の小・中・高への参加案内通知
5月14日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」練習(第1回)
5月21日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」練習(第2回)
5月27日	開催チラシ印刷
5月28日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」練習(第3回)
5月29日	公共施設等チラシ配布依頼
6月 1日	市政だより(開催のお知らせ)
6月 3日	参加団体全体会議
6月11日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」練習(第4回)
6月16日	運営委員会
6月18日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」練習(第5回)
6月20日	来賓の案内通知
6月22日	出版物許可申請
6月23日	文化センターとの打合せ
6月23日	プログラム印刷

6月25日	区民合唱団「宙 ^{そら} 」練習(第6回)
7月 2日	合唱のつどい本番
7月25日	運営委員会

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

「合唱のつどい」の実行委員会の中心的役割を担っている「合唱連盟わかばやし」の高齢化が進んでおり、今後も継続していくためには、若年層の参画が必要である。

9. 今後の事業の目標・展開等

課題等を踏まえ、持続可能な取り組みを基本としながら、若林区内に存する文化活動の継承やまちづくり等のため、幅広い層に関心をもってもらえる働きかけが必要と考えている。

令和4年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

広瀬川灯ろう流し実行委員会（まちづくり推進課）

2. 事業名

第33回広瀬川灯ろう流し“光と水とコンサートの夕べ”

3. 事業の概要

広瀬川の河川敷（宮沢橋～広瀬橋）に特設会場を設営し、野外コンサート、花火打ち上げ、灯ろう流し、縁日コーナーを開催する。

- ・ 開催日 令和4年8月20日（土）
- ・ 開催時間 午後3時～午後9時
- ・ コンサート 地元の中学生による吹奏楽の発表その他公演
- ・ 花火 午後8時00分頃～午後8時30分頃

4. 事業の目的・ねらい

全国的に知られ仙台市民の誇りである広瀬川にまつわる歴史・文化に触れる機会を創出することを事業の目的とし、参加者が改めて広瀬川の自然を認識できることをねらいとする。

5. 事業の成果・効果

- ・ 来場者数はのべ4万人であった。
- ・ 地元中学校や地域団体の参加、警察・消防等の協力で、住民参加の催事を事故等なく開催することができた。
- ・ 宮城県とやり取りしながら、十分なコロナ対策のもとで開催でき、感染者（把握）数はゼロである。
- ・ 近隣商店街への来街者も多く、飲食店等への来店顧客・デリバリーの顧客増に繋がった。

6. 事業費（決算額）

7,726,530円

※財源として、仙台市より補助金2,836,000円

若林区 1,418,000円（会場設営費、警備代）

太白区 1,418,000円（花火代）

7. 実施状況

実施時期	実施内容
令和4年4月19日	事務局担当者会議（開催の検討）
4月20日	宮城県危機管理課 コロナ感染対策打合せ
5月17日	第1回全体会議（役員選任・事業概要説明・承認）
7月11日	業者会議（会場設営確認）
7月27日	第2回全体会議（開催準備状況確認）
8月4日	安全対策会議（若林市民センター 若林警察署他）
8月20日	開催当日 広瀬川灯ろう流し“光と水とコンサートの夕べ”開催
8月21日	現場清掃作
10月20日	監査会開催

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

資金難のおり、各商店街において募金活動・広告協賛活動により、市民及び商店街各店の方々の多大なる支援をいただきながら開催できたことに感謝するとともに、あらためて今行事が地域の催事として受け入れられていると認識したところである。

今回は、夏休み最後の土曜日で、多くの来場者を受け入れる状況となり、雑踏警備体制の解消について反省がある。花火打ち上げは、鎮魂とともに夏の終わりを感じさせ、来場者に大変喜ばれている。市民の安全を第一とし、今後も事故がないよう対策していく。

9. 今後の事業の目標・展開等

太白区・若林区両区の夏の催事として事業を継続していくため、実行委員会のみならず、地元の商店街スタッフや地元住民を巻き込んで、市民ボランティア等の知恵とマンパワーを拝借し、当日の運営や費用捻出を安定的なものにしていきたい。

令和4年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区まちづくり協議会(事務局 若林区まちづくり推進課)

2. 事業名

若林区魅力発信事業(若林わくドキまち歩き)

3. 事業の概要

若林区への愛着や興味を促進させるとともに、地域の魅力を体感できるイベントとして、まち歩きを実施する。

4. 事業の目的・ねらい

若林区の歴史的な街並みなど、他区とは一味違う魅力を多くの方に知ってもらい、興味・関心を持っていただくためのまち歩きである。また、若林区内の方にも参加していただき、普段は気に留める事のない場所を歩くことで、新たな若林区の魅力を発見していただきたい。

5. 事業の成果・効果

今年度は、コロナウイルス感染拡大防止に努めながら全2回まち歩きを実施した。各回ともガイドの選定がマッチし、ペースや時間の配分などバランスの取れたまち歩きが出来たほか、深みのある解説が参加者に受けていた。また、2回とも申込者数が多く抽選となった。恒例になっている4月実施のまち歩きでは、過去最高の申込者数となり、コロナ禍においても対策を講じながら活動を続けてきた成果が表れたと考えられ、メンバーのモチベーションも高まった。五区からまんべんなく応募者がおり、まち歩き活動が浸透してきた様子も窺える。

6. 事業費（決算額）

88,748 円（仙台市助成金 150,000 円）（未確定）
保険料…3,600 円 ガイド謝礼等…42,840 円 バス借上等…42,348 円

7. 実施状況

実施時期	実施内容
令和4年 4月9日	第1回 まち歩き「新寺こみちを歩く 桜・お寺通り」
6月8日	第1回 若林わくドキまち歩き企画会議
7月26日	第2回 若林わくドキまち歩き企画会議
8月26日	第3回 若林わくドキまち歩き企画会議
9月10日	第2回 まち歩き「貞山堀と震災復興」

令和4年 10月26日	第4回 若林わくドキまち歩き企画会議
12月7日	第5回 若林わくドキまち歩き企画会議
令和5年 1月17日	第6回 若林わくドキまち歩き企画会議
2月21日	第7回 若林わくドキまち歩き企画会議
3月予定	第8回 若林わくドキまち歩き企画会議

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

応募者数に対して、参加出来る人数が少ない。コロナ禍においては人数を絞らざるを得ないが、やはりもう少し人数を増やしたかった、という声もスタッフから出ていた。

また、リピーターが多いことは好評を得ていると考えられる一方で、参加者の多くは高齢者が多く、参加者に偏りがあるように感じている。このまち歩きは、「若林区の魅力の発信」なので、回毎にターゲットとなる年齢層を変えたテーマ選定をしたり、まち歩きの方法を変えるなどして、より多くの年齢層の方に触れてもらえるようにしていく必要があるように感じる。

9. 今後の事業の目標・展開等

新規メンバーの獲得や外部団体との連携を行い、これまでと違った新鮮さを取り入れることで、より多くの市民が興味関心を引くコンテンツを創出していける事業にしていきたい。